

△みねのふ



秋播き小麦刈取り作業（且見 隆さん圃場、美唄市峰延町峰樺三区、7月23日）

■発行日/平成30年8月1日/No.1396号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

小麦集出荷調製施設操業開始

小麦集出荷調製施設の本年産麦の受け入れ開始は、前年より3日遅い7月27日から始まりました。

今年は雨天の日が多く刈り取り作業が順調に進むか心配されましたが、早いところで7月20日から始まり、以降は晴天が続き順調に進んでいます。

小麦集出荷調製施設の出荷一番乗りは光珠内北の笠木敏文さんで「きたほなみ」2469kgを搬入し、記念として森川組合長からお祝いの品が手渡されました。

農業施設課（営農販売課）

☎0126-67-2334

小麦集出荷調製施設

（臨）☎0126-67-3210

（臨）FAX0126-67-3211



初出荷の記念品を受け取る笠木さん



黄色の旗の波で交通安全を呼び掛ける

黄色の「旗の波」で交通安全を呼び掛ける

6月28日の朝8時から、当JA

伊藤専務理事以下職員15名が「スピードダウン」「安全運転の励行」と記した黄色い旗を振る「旗の波

作戦」活動を行い、国道12号を往来する車の運転者に交通安全を呼び掛けました。

これは美唄地区安全運転管理者協会に登録する全事業所が取り組む活動で、職場内の交通安全意識の醸成と地域社会で車両を使って事業活動をする一員として無事故・無違反を社会に広く訴え掛け、「交通事故のない安全で安心な社会

-報徳-

何を貧・富といふか

翁のことばに、世間の人には、口には貧富・驕僥と言ひ慣わしているが、何を貧といふか。何を富といふか、何を驕といふか、何を僥といふか。天下には、もとより大も限りがなく小も限りがない。持ち高十石を貧といえば無祿の者があるし、十石を富といえば百石の者がある。百石を貧といえば五十石の者があるし、百石を富といえば千石万石がある。その千石を大と思えば世間では小旗本というし、万石を大と思えば世間では小大名という。それなら何を認めて貧富・大小を論じたらよいのか。これは、物の売買のときに、物と値とを比べてこそ高い安

の実現」を目指す狙いがあります。

第6回（7月定例）理事会の開催について

理事会の開催について

7月25日開催の第6回理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 大豆乾燥調製貯蔵施設（第9次地域農業振興計画）に係る

開発行為に伴う追加工事について

2. 諸規程等の一部改正について

翁のことばに、世間の人には、口には貧富・驕僥と言ひ慣わしているが、何を貧といふか。何を富といふか、何を驕といふか、何を僥といふか。天下には、もとより大も限りがなく小も限りがない。持ち高十石を貧といえば無祿の者があるし、十石を富といえば百石の者がある。百石を貧といえば五十石の者があるし、百石を富といえば千石万石がある。その千石を大と思えば世間では小旗本というし、万石を大と思えば世間では小大名という。それなら何を認めて貧富・大小を論じたらよいのか。これは、物の売買のときに、物と値とを比べてこそ高い安

いが論ぜられるが、物ばかりでは高い安いがいえないし、値だけでも高い安いが論ぜられないのと同じことだ。この点が世人の戸惑いするところだから、詳しく説明しよう。今、千石の村で戸数が百戸あるとすれば、一戸十石にあたる。これは自然の数であって、これこそ貧でもなく富でもなく、大でもなく小でもなく、不偏不倚の「中」というべきだ。この「中」に満たないのを貧といい、この「中」を超えるのを富という。また、この十石の家が、九石で暮らしきを嘗むのを僥といい、十一石で暮らすのを驕奢という。そこで私はいつも、「中は増減の源、大小兩名の生ずるところなり。」といつているのだ。だから、貧富は一

つになっているのだ。だから、貧富は一村一村の石高の平均度によつて定めるべきだし、驕僥は一己一己の分限によつて論ずるべきだ。その分限によつては、朝夕美味美食に飽きて、にしきの着物を着ておろししようと、玉をちりばめた家に起き伏らしようと、おごりではない。また分限によつては、米の飯もおごりなら茶もたばこもおごりなのだ。みだりに驕奢・節儉を論じてはならない。

農業用廃ビ・廃プラ回収 青年部が実施

6月29日、JA青年部が農業用廃プラスチック類の回収を行いました。

回収したのは、使用済みのハウスピニール、マルチ、育苗箱、肥料袋等で、164人の組合員の皆さんから約38㌧の産業廃棄物を回収しました。峰樺3区の農産物検査場所に集められ、排出者（組合員）毎に重量を測定・記録した後に種類毎に分別して運送会社の大型トラックに積み込まれ苦小牧の産業廃棄物処理業者に搬送されました。



排出者毎に重量を測定



相談の様子

JAでは、生活環境を守り「環境にやさしい農業」を実践して安全・安心な農産物生産の実践を目指しています。

年金相談会を開催

7月6日、当JAで年金相談会を開催しました。

当JAでは、組合員や利用者が

した。

回収した廃プラは固形燃料として産業廃棄物処理業者が運営する苦小牧にある火力発電所で再利用され化石燃料の代替燃料とし有効利用されます。

安心して年金を受給できるよう、年金相談会を毎年開催していく、今回相談に訪れたのは事前に予約の5人です。

相談を受けたのは荒千鶴社会保険労務士（札幌）で、年金受給に必要な手続きや年金額の試算など年金に関する疑問について、分かりやすく丁寧に説明していました。

年金のお受け取りは当JAで
ビールパーティー
盛会裏に終わる

当JAのビールパーティーが7月6日に当JAビル裏の駐車場に設けた特設会場で開催しました。

この日は、最高気温が21℃で午後4時からの開催で更に涼しくなりましたが、組合員の皆さまとご家族、地域住民の皆さま、ホクレン等の農業団体の皆さま等約300名の方々にご来場いただきました。

森川組合長は挨拶で「日頃のご愛顧に感謝を申し上げます。このビールパーティーは組合員の皆さま、地域の皆さまと交流が出来る大切な催しと位置付けていて、今年で5回目を迎えることが出

来感謝申し上げます。」と述べました。



挨拶を述べる森川組合長

会場では、炭火で焼いたステーキやほつけの干物、ベーコンブロッキ、手羽先、おでん等に加え、美唄福よしの焼き鳥が用意されて生ビールが進んでいました。生ビールのほかに当JAの酒「一圓融合」も販売され日本酒愛好者の喉を満たしていました。他には、角屋のキッチンカーが来てソフトクリーム・たこ焼き、峰延手打ちそば愛好会がそばを販売しました。

会場は焼き鳥やステーキを焼く美味しい香りが漂い、福よしの焼き鳥には買い求める行列が出来て

いました。

高橋美唄市長、野原道議会議員、小関美唄市議会議長のほか、ホクレンや信連、共済連等の岩見沢支所の他、農業関連団体の職員の皆さんも訪れ会場の皆さんと交流を深めていました。

来場の皆さんと一緒に楽しむイベントでは、小さなお子さんが楽しむ「ジャンボ輪投げ」で沢山の輪を入れて景品の菓子をもらつたお子さんは大喜びをしていました。コップのコーラをストローで飲み切る順位を競う「コーラ早飲み対決」では細いストローで一気に飲むことに苦しんで会場が沸いていました。2人ペアで参加し一人が



今年も大勢の来場です



高橋美唄市長・小関美唄市議会議長が訪れました

出題されたお題を見てホワイトボードにヒントになる絵を描きもう一人がその絵を見て答える「お絵かきですよ！」では、親子や友達同士、職場の同僚がペアで5組が参加、ユーモラスなイラストに会場が爆笑していました。最後は会場の皆さんお楽しみで最高に盛り上がる「大抽選会」、ビールチケットの半券に記載の番号を安達常務理事が引き当てる豪華な景品が当たりますが、番号が発表される度に歓声と落胆のため息が聞こえていました。

最後に、伊藤専務理事が閉会の挨拶を述べビールパーティーは盛会になりました。



お子さんも楽しんでいます



福よしの焼き鳥は大人気



大抽選会



コーラ早飲み対決



ハスカップの収穫

美唄尚栄高校の生徒がハスカップ収穫実習
7月9日、美唄尚栄高等学校フード系列（農業科）2年次の生徒19人が当JA管内の農園にハスカップ収穫実習に訪れました。当初の計画では7月2日でしたが雨天のためこの日に変更して実施となりました。受入した農園は佐久間農園（美唄市豊葦町）で昨年に続いての受け入れということです。生徒の皆さんは貸切バスで訪れ10時30分から収穫開始、午前の実習の12時30分まで真剣に収穫していました。

授業で、個人毎に収穫量を計量しました。ハスカップ収穫は実習授業で、個人毎に収穫量を計量し学校の成績に反映されるとあって真剣です。時々摘み取りながらハスカップの味を確認し甘い実を選んで摘んでいました。昼食は佐久間さんの農舎の中で、30分程度で済ませ午後の収穫を14時まで続けていました。収穫したハスカップは学校に戻つてジャムに加工するということで、畑で農作物を収穫し自らジャムに加工することで、畑から食卓へ繋がっていくことを実験していました。



午前に収穫しました



先生が一人ずつ収穫した量を計量記録

大豆乾燥調製貯蔵施設建設に着工

現在実行している当JAの第9次地域農業振興計画（平成28年（平成30年）に見込んだ大豆乾燥調製貯蔵施設の建設がいよいよ始まりました。

連作障害回避のため小麦から大豆に作付がシフトし大豆の作付面積が大幅に増加していることに伴い、現在使用している施設では乾燥調製と貯蔵が対応出来なくなるために第9次地域農業振興計画に見込んだもので、現在使用の施設



建設地（美唄市峰延町峰樺3区）

の倍の処理能力を持つ施設として、大豆専用の貯蔵施設を併設します。美唄市峰延町峰樺3区にある現地の取得を終え、土地造成工事、建屋工事、設備工事に分けて工事を発注することとしていて、6月29日に土地造成工事、7月10日に設備工事の入札を行いそれぞれ発注となりました。今後は8月下旬に建屋工事を発注する予定です。国の補助事業の産地パワーアップ事業で実施し、事業費の約50%を補助金で充てることとしています。

峰延農協年金友の会
パークゴルフ大会開催

7月11日、峰延農協年金友の会（会長 吉田 栄）のパークゴルフ大会が三笠市岡山にある三笠市パークゴルフ場「サン・パーク」で開催されました。

参加者は事前に事務局に参加申し込みを行つた31名（男性24名、女性7名）、雨天の多い中でこの日は好天に恵まれ参加された皆さんの中でも白熱したプレーが展開されていました。



今大会の優勝者は、男性は渡辺幹夫さん（峰延東松盛会）、女性は渡辺艶子さん（峰延東松盛会）で夫婦揃つての優勝となりました。ホールインワンは、吉田安蔵さん（光珠内老人長生きの会）と和作弘信さん（上美唄長生会）の2人で、競技終了後に表彰式が行われました。

ースから一斉にスタート、日頃の練習の成果を發揮しようと真剣にプレーを行い、時々見られる好プレー、珍プレーに歎声や嘆息が起り和やかに楽しんでいました。

達常務理事がお祝いの挨拶を述べました。



小林篤一翁の墓参に訪れる

7月12日、北海道報徳社の一行が三笠市峰延墓地にある小林篤一翁の墓参りに訪れ森川組合長、伊藤専務理事、安達常務理事が同行しました。

墓参りに訪れたのは、JA北海道信連経営管理委員会会長の佐藤彰氏（JA北いしかり会長理事）、北海道報徳社の柴田常務理事と女性職員の3人で、全員で墓の周囲を清掃し墓石を洗つた後、花を供え線香を手向けました。

北海道報徳社では毎年、小林篤一翁の墓参を続けていて近年は当



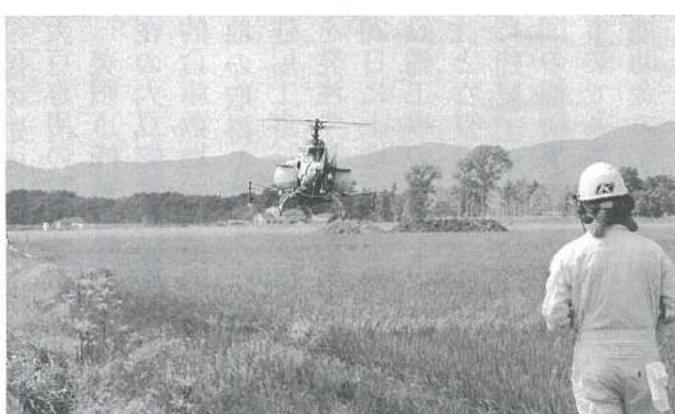
墓参に訪れた皆さん

無人ヘコプターによる

J A 常勤理事も同行し一緒に墓参りを行っています。

農業散布行う

J Aが取りまとめている無人ヘリコプターによる水稻の農薬散布は7月中旬から8月中旬までの期間に全4回を予定していますが、1回目の防除が7月18日から2日間の日程で行われました。今回の実施面積は28.6haで、3班×4班体制で実施、いもち病等防除カムムシ等駆除の混合剤を使用して行われます。4回分の延実施面積は198.6haを予定しています。



河野和秀さん 圃場（光珠内）7月18日

【連載】～続・今こそJA!～

【第3回】協同組合は儲けてはいけない?

協同組合は儲けてはいけないのでないのではないか?という声を聞くことがあります。旧農協法第8条にも「組合は~営利を目的としてその事業を行ってはならない」という条文がありました。ここで非営利の意味について考えてみましょう。

株式会社の目的はその利益を株主に配当することが目的であり、この利益を「営利」と呼んでいます。一方、協同組合は組合員に対する最大奉仕が目的であり、配当を目的とした活動はしていません。これが協同組合が「非営利」といわれる所以です。

しかし、実際に協同組合が事業を進めるにあたっては利益が出ます。赤字にならないよう安全を見越して手数料を若干高めに設定したり、肥料などの購買品を大量仕入れすることでコストを下げたり、販売物を有利に販売した場合等があるからです。

協同組合では、こうして結果的に出た利益を剰余金と呼んでおり、これを組合員の利用高に応じて戻す形をとっています。ロッヂデール原則の6番目にも「剰余は購買高に応じて組合員に分配する」という表現があります。こうした利益に対する考え方は協同組合がスタートした時点ですでに固まっていたと言つていいでしょう。

平成28年4月に農協法が改正され、それまでの非営利から「組合は~農業所得の増大に最大限の配慮をしなければならない」という表現に変わりました。協同組合が利益を出す=儲けてはいけないということではありません。法律が変わっても組合員の利益に配慮することは協同組合の中に脈々と生き続けているのです。



ロッヂデール記念館
(ロッヂデール公正先駆者組合発足当時の店舗倉庫を改装したもの)

峰延にミュージカルがやって来る!!

とき 平成30年10月20日(土)
14時00分開場
ところ 峰延中学校体育館

第1部『報徳講演会』講師 中桐万里子 氏



講演会 14時30分~15時10分

【プロフィール】――

昭和49年生まれ 東京都出身
二宮尊徳(二宮金次郎)7代目子孫
慶應大学環境情報学部卒
京都大学大学院修了、同大学院にて教育学の博士号取得
国際二宮尊徳思想学会常務理事

第2部 ミュージカル『KINJIRO!』



開演 15時30分~17時00分
チケット 大人(高校生以上) 2,000円
小人(小・中学生) 無料

劇団わらび座のミュージカル
農業・経営・教育・政治と様々な分野に才を發揮した『二宮金次郎』の波瀾万丈な人生と魅力を笑いと音楽で描きます。

主催 峰延報徳交流会実行委員会(委員長 森川和徳)/協賛 JAみねのぶ/

後援 美唄市、美唄市教育委員会、岩見沢市、岩見沢市教育委員会

チケット販売 8月1日開始(JAみねのぶ店、総務課)

お問合せ先 農業経営課 ☎0126-67-2333

峰延報徳交流会実行委員会では、報徳交流会(講演会、ミュージカル)開催の賛助金を受け付けています。

・贊助金 1口 1,000円(現金もしくは口座振替)

・振込先 峰延農業協同組合本所 口座名:峰延報徳交流会実行委員会 口座番号:(普)0015788

・受付期間 平成30年7月11日(水)~10月5日(金)

JAグループ通信

No.25

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
 JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、
 組合員の皆様に定期的にお伝えします。
 各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



今後も持続可能な北海道農業確立に向けて、生産現場の意見をしつかり国等に伝えて参ります。

J Aグループ北海道からは道連役員、J A組合長、青年女性組織代表者ら143名が参加し、農協組織基盤、基本農政、水田、畑作青果、酪農畜産の各対策について要望内容を農林水産省に伝え、意見交換を行いました。

7月2日、平成31年度農業関係予算概算要求に向けた農林水産省との意見交換会を、4～5月にかけて各地区から寄せられた現場の意見を踏まえ、6月の各作目別対策委員会等で決定した、J Aグループ北海道の政策提案に基づき行いました。

JA北海道中央会



JA北海道信連



「環（※めぐる）」と「真白（※まさろ）」の売り上げの一部が活動に役立てられているコーポレートの事業「第11回コープの森植樹祭」が、今年も5月から6月にかけて全道11カ所で開催されました。

環と真白1パック購入ごとに1円を「コープ未来（※あした）の森づくり基金」に協賛しており、2017年度は、約63万円の実績となりました。



ホクレン

HOKUREN
Seeds
PROJECT



J Aバンク北海道は、特殊詐欺被害が多発している現状を踏まえ、北海道警察と連携し被害防止への取り組みを実施しています。6月に実施した「年金感謝ウォーク」では、J Aで年金をお受け取りされているお客様が来店した際、特殊詐欺に関する注意喚起の標語を印刷した「招福ようかん」をお渡しました。また、ラジオ番組では電話でお金を要求された際に家族や警察に相談することを幅広く呼び掛けています。



J A北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るために、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しております、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



J A共済連では、7月8日に札幌ドームで開催された「北ガスグループ6時間リレーマラソン」に有志34名が参加しました。他の企業も多数参加しており、JA共済連では「ひと・いえ・くるまの総合保障」を掲げ、職員が揃いのTシャツを着て一生懸命走ることで、JA共済を大きくPRしました。

今後もこのような活動を通して多くの皆さんに「JA共済」を知つていただきよう活動していきます。



JA共済連北海道

